

二〇二四年五月二日

切岸の岩を絞りて苔清水	ぼんこ
深山道樹間隠れに躑躅燃ゆ	わかば
岩窪の小祠に生ふ銀竜草	ぼんこ
藍染の鯉のぼりたつ工芸館	むべ
鬨ぎあふ広葉の母衣や熊谷草	澄子
一山家五彩の緑籬とす	小袖
熊谷草へと日矢洩るる杉美林	あひる
慰霊塔萌ゆる若葉を抽ん出し	康子
沢蟹の瀬石に紛れかくれんぼ	たか子
またもとの瀬石へ戻る糸蜻蛉	あひる
恐竜の森てふ秘境熊谷草	うつき
朽木めく台場くぬぎに若葉萌ゆ	あひる
溪風に紅ほぐれそむ楓の芽	むべ
熊谷草母衣めく広葉翻し	たか子
摘みし草供ふ子育て大師かな	なつき
樹下涼しデッキチェアに足あづけ	かえる
青羊歯の覆ふ岩戸は間歩の跡	ぼんこ
蜘蛛の囿の無残うつぎの屑まみれ	うつき

苔潤むところ若葉の影遊ぶ	かえる
水の色森の色引き糸蜻蛉	うつき
花菖蒲江戸肥後伊勢と陣分かち	せいじ
過疎の里休耕田に雉子鳴く	よう子
山嵐しばしな吹きそ朴の花	むべ
手汗拭きおもかる石を持ち上げぬ	なつき
沢音の奈落に響く谷若葉	康子
輪塔に日の斑のあそぶ夏木立	かえる

定例WEB句会みのる選

二〇二四年五月二日